

ホームページへの掲載		
済	8月15日	掲載

岐阜県立多治見高等学校

学校長 鈴木 彰

学校住所 多治見市坂上町9-141 電話 0572-22-4155

- 1 会議の名称 岐阜県立多治見高等学校学校評議員会 (第1回)
- 2 会議の構成
委員 伊藤 ゆかり 本校卒業生
仙石 健一 本校育友会役員
虎山 宗哲 多治見青年会議所理事長
本田 幸司 JR東海多治見駅首席助役
村松 敦子 多治見市養生公民館館長
(委員名は五十音順)
学校側 鈴木 彰 校長
吉田 浩之 教頭
尾形 昭 事務長
田並 正 教諭(教務主任)
加藤 元規 教諭(生徒指導部長)
堀 裕邦 教諭(進路指導部長)
可知 幸則 教諭(特別活動部長)
河田 雅伸 教諭(教務部)
- 3 会議の目的 学校運営や教育活動について地域社会や保護者などに責任説明を果たすとともに、要望や意見を幅広く聞き、地域社会からの支援・協力を得て、それを反映できる開かれた特色ある学校づくりを推進する。
- 4 会議の開催 令和2年 7月15日(水)～8月7日(金) 書面開催
委員5人と学校側8人が、書面にて意見交換
- 5 会議の概要
(1)各分掌説明
教務部 / 進路指導部 / 生徒指導部 / 特別活動部
カリキュラムマネジメントについて / 地域課題型探究学習について
(2)学校に期待すること
・新型コロナウイルスの影響で休校期間が長期化し、大学受験を控える生徒や保護者は、具体的な対策もわからず心配と不安を抱えています。多治見高校ではオンライン講義などで授業の在り方を工夫されていますが、生徒がより集中して取り組むことができるよう、今後も先生方の工夫を凝らした授業を期待しています。
・多治見高校の生徒さんは少し控え目で大人しいイメージです。「探究ゼミ」のような地域と積極的に関わり、自ら考え行動する授業は、真面目で勉強が得意で、何か挑戦したいが、すべきことがわからない生徒に夢のある学習です。身近な地域課題への取組で、

- 多治見市を担う未来のリーダーを育成してください。卒業生として応援しています。
- ・先生方のコロナ感染拡大防止策のおかげで、安心した学校生活が送れることに大変感謝しております。先生方も疲弊されていると思いますので、お体をお労わりください。

(3) 学校に対する要望

- ・学校行事や部活動などが自粛となり、気持ちが沈んでいる生徒も多いと思います。貴重な高校時代の経験や学習活動や部活動が、楽しくより充実したものになるよう積極的に過ごしてほしいと思います。協力できることがあれば是非手伝いをさせていただきます。

(回答 特別活動部)

- 生徒会執行部を中心に、今自分たちにできることを考え、小さなことから行動に移しています。制限はありますが部活動も再開され、楽しく学校生活を送っています。
- ・いじめ問題と不登校について、コロナ禍でさらにストレスを抱えている生徒や保護者が心配です。いじめが起りやすい環境でないか、いじめ早期発見チェックリストなどで粘り強く指導をお願い致します。

(回答 生徒指導部)

- 一斉メールを利用した「心のアンケート」をこれまでに4回実施しており、早期にスクールカウンセラーと連携する施策を行っています。今後、月毎に実施する予定です。また、「いじめ調査」(年3回予定)も実施し、生徒が我慢することなく話しやすい環境づくりを心掛けています。
- ・新型コロナウイルスとの戦いは長期戦となりそうです。まずは健康管理と感染予防対策の徹底に努めていくことが大切ですので、折に触れ予防対策の指導啓発を継続していただきたいと思います。

(回答)

- 徹底した対策をしていますが、かなりの長期戦になっているため、疲弊感や慣れなどから、油断が出てきている状態にあることも否めません。また多治見地区を含めて県内にも発生していますが、陽性の方が利用しているJR等に同乗する本校生徒の感染の可能性も危惧されます。あらためて気を引き締めて、徹底した予防策を行い、感染者が出た場合の対策も徹底して、支援していきたいと思います。
- ・現在のコロナ禍においては、感染リスクや進路決定など、生徒の心理的な不安や悩みが増えると思われます。また、不登校やいじめ問題もこれまでより増して先生方が頼りとなります。生徒とのコミュニケーション、生徒が必要な時に気軽に相談できる体制づくり、そして支える先生方の働き方や、サポートも必要ではないかと思えます。
 - ・生活リズムの乱れ・学習格差により、心の問題を抱える生徒が増加する恐れがあると思えます。本年度は、桔梗祭等の学校行事や部活動の大会・コンクールの中止など、特に3年生が活躍の場を失われてしまい無念で大変心配です。我々も経験がない事ばかりで大変苦慮していますが、この現実を受け止め前向きに捉え、苦しい中でも努力しようと思えます。この時期の過ごし方を工夫して欲しいと思えます。

(回答 生徒指導部)

教育相談室を設けて担当教師を配置し、熱心かつ共感的に時間をかけて生徒対応をしています。また、徹底した生徒の日常観察から得た生徒の微妙な変化等の情報を教員同士で共有し、「全員対応・即対応」という姿勢で行っています。職員・学年会議での対応やスクールカウンセラーとの連携も良好で、生徒の悩みやストレス

低減に努めています。

(回答 特別活動部)

生徒会執行部を中心に、今自分たちにできることは何かを考えさせて、小さなことから行動に移しています。部活動も小規模な大会を開催する方向で調整中です。

- ・新しい生活様式を日常に変えて、先生方には目標実現に向けて粘り強く頑張っていただき、生徒の皆さんには多治見高校で学べて良かったという一年にして欲しいです。

(回答)

本校では、生徒に粘り強さを身につけさせたいと考えており、今回はコロナ禍のピンチを乗り越える力を身に付けさせるチャンスととらえて、学校生活全体で支援していきたいと考えています。

- ・規範意識を育てる校則ですが、多様化する社会に対応するために、適宜変更することも必要だと考えています。生徒と教師の意識の乖離がないようにお願いします。

(回答 生徒指導部)

いわゆる「ブラック校則」とならぬよう注意を払いながら、毎年見直しをしております。また、次年度原案を生徒会執行部や育友会役員会にて提示し、意見を求め、了承を得るなど、意識の乖離が無いように努めています。

- ・本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のために各種行事が中止となったとのことですが、生徒にとって今年の活躍の場が失われたことは非常に残念ですし、悲しいことだと思います。是非、事業規模を縮小するなど、感染症対策をしっかりと講じた上で、生徒さんが記憶に残る素晴らしい場の創出をしていただきたいと思います。

(回答 特別活動部)

桔梗祭が中止となり、体育館も工事中で使用できないため、生徒会執行部では秋の球技大会に代わるスポーツ&リクレーションイベントを企画中です。

(4)ご意見

- ・新型コロナウイルス感染拡大による影響により、年度当初から休校を余儀なくされ、生徒との十分な時間が取れないままの一年のスタート、行事や学習指導の遅れなど、先生方はじめ生徒及び保護者の皆さんの心配や不安はいかほどかと察します。
- ・教務部の資料にあるように、教育目標が新しくなり、これからの多治見高校の方針が明確で分かりやすいと感じました。地域から期待される進学校として、文武両道を継承し、地域活動でも一人一人が高校生らしい力を発揮していただきたいと思います。公民館として協力できることがあればいつでもご相談ください。

(5)質問

- ・普通科の単位制への移行は、これからの多様化する進学（大学入試）に対して大きなメリットがあると思います。平成30年度の導入から3年経過した今、現3年生の習熟度や進学に対する意識は、導入前と比較してどう変わりましたか？

(回答 教務部)

3年次の選択を、2年次の文理選択を通して1年次生で考えなくてはならないので、1年次生にとっては将来を見据えた進路選択になります。選択肢が多いため主体的な選択が必要になるため、結果的に進路について考え学んでいると思います。

- ・臨時休業中の取組としてオンライン授業がありますが、視聴できなかったりオンライ

ン環境に不安のある生徒がいるのではないかと思います。県よりタブレット端末の貸出し等もあったかと思いますが、現時点で大きな問題というものはありますか？

(回答 教務部)

生徒側の受信に関しては、タブレットの貸し出し等で全員可能になりましたが、送信側の回線数が3回線と少なく、各学年200人程度を相手に授業を行いました。特に3年次生の選択科目は配信時間が限られ、オンライン講義で十分補えたとは言えません。対面授業と同様に画面の向こうの生徒の顔が見える人数(40人弱)に対して効果的な授業を行うためには、教員1人1回線が理想です。

- ・オンライン講義による家庭学習の格差、学習の遅れによる新大学入試への対応が懸念されます。第2波が来るかもしれないので今後の課題ではないでしょうか。

(回答 教務部)

新大学入試では主体的に学習する力も求められています。知識伝達中心の授業から、課題を見つけ解決方法を模索する力を育成する授業への転換が急務です。本校では2年次生のゼミ学習を中心に自ら学ぶ姿勢の育成を行っており、学校が休業となっても、自ら学び続けてくれることを期待しています。

- ・市内には普通科を有する高等学校が他に2校あり愛知県の私立高校へ進学する者も多くいます。少子化で生徒確保は非常に厳しく、中学生と保護者へのPR、また地域への魅力発信も必須であると考えます。進学校としての実績数値の提示以外にも、地域とふれあい連携する活動が必要です。生徒確保を意識した特別な取組はありますか？

(回答 進路指導部)

地域とのふれあい、連携を目指して進路指導部が行っている取組として、「ゼミ学習(探究ゼミ)」を通しての「ふるさと教育」の推進が挙げられます。今年度も、養正小学校、多治見市まちづくり株式会社、多治見市図書館をはじめとする近隣施設との連携を図りながら、課題探究型学習を実施する予定で、このような取組について広く情報発信していく必要があると感じています。

(回答 教務部)

本校は2019年度より、地域課題探究型学習推進事業の指定校となっています。ゼミ活動の一環として市内商店街をコラボした「町づくり活性化プロジェクト」、養正小学校での「高校生による英語授業」、また土岐川ゼミの研究は第8回エコワングランプリで内閣総理大臣賞を受賞するなど、生徒たちの活躍は想像以上ですが、外部へのアピールという点ではまだ改善の余地があります。今年度は中学生体験入学が中止されるなどアピールの場も減りました。秋に行われるオープンスクールを中心に、積極的に多治見高校のよさを地域に伝えていきたいと思っています。

6 会議のまとめ

(学校長より)

今回はコロナ禍のためこのような会議形式となりましたが、様々なご意見をいただきありがとうございました。

地域の皆様の支えがあつての多治見高校であります。安心安全を確保した上で、ふるさと教育を中心に学校教育活動全体で地域貢献をしていきたいと考えます。今後とも様々なご意見をいただき、学校職員全員で良い学校にするため取り組んでいきたいと考えます。本日は、どうもありがとうございました。